日本鐵鋼協會記事

◎評議員會

大正八年九月二十三日(火曜日)午後五時より本會事務所に於て評議員會を開く、會議事項左の如し。

一、本會々誌印刷費値上に關する件

右印刷費値上に就ては本年六月四割の値上をなしたるに更に八月に至り三割値上の要求に接したるを以て本年三月決定せる豫算額にては到底繼續し得ざるなり、加之事務員の手當增加並に諸經費の增額等に因りて本年度に於ける收入に對する支出の增加するもの實に七千六百餘圓となるなり。是に於て之が善後策として此際會費の引上げ又は其他の方法等の說ありたれども結局來年三月迄は現狀を維持し追て研究の上何分の決定を爲す事とせり。

當日出席者は左の諸氏なり。

今泉嘉一郎君　野呂　景義君　俵　國一君
香村　小錄君　鹽田　泰介君　松下　長久君
種子田右八郎君　桂　辨三君　以上

◎理事會

大正八年十月二日(木曜日)午後五時より理事會を開く當日の會議事項左の如し。

一、退會者の件
一、會員名簿改版に關する件
一、其他會務に關する件

當日出席者は左の諸氏なり。

今泉嘉一郎君　野呂　景義君　俵　國一君
鹽田　泰介君

◎編輯會

大正八年十月二日午後五時より編輯會を開き、會誌第五年第十號の原稿を選定せり、當日出席者は左の諸氏なり。

井上　克己君　室井嘉治馬君　櫻井　爭三君
尾藤加勢士君　堀　尙靖君　河合　匡君
淺尾芳之助君

◎書籍寄贈

大正八年十月二日堀尙靖氏より左の書籍十三部寄贈せられたり。

海運近況。主要海運國航海法規摘要。歐米製鐵業ノ近況。楊子江沿岸ニ於ケル造船造機業。大正七年中ノ海運概況。鐵筋混凝土船ニ關スル調査。獨逸海運之過去現在及將來。佛國商船廳ノ事業。各國戰時船舶管理制度概要追加。一千九百十七年中ニ於ケル各關ノ海運及戰時海上保險ノ概況。各

國戰時船舶管理制度概要。佛國ニ於ケル造船及航海補助制度並ニ其ノ效果。佛國ニ於ケル主要海港ニ關スル調査。以上

◎入退會者

前號報告後入退會を承諾せられたる會員左の如し。

退會者（住所及職業）

大阪市南區順慶町三ノ二七　正員　山陽製鐵株式會社
東京市神田區表猿樂町四　鑛業　同　柴田義久
福岡縣小倉市鍛冶町八六　同　前田薫郎
神戸市和田岬三菱造船所造機部　准員　藥袋四郎

入會者（住所及職業）

神戸市兵庫港町二ノ一四　日本製鐵會社長　正員　岸本信太郎
東京市芝區高輪南町五一　淺野同族會社鑛山部長　同　飯島純介
富山縣射水郡新湊町　電氣製鐵會社員　准員　向山幹夫
京都市吉田町神樂岡二三　京都帝國大學學生　同　加藤九里
南滿洲本溪湖煤鐵公司員　同　高橋鐵造
長崎市本大工町六八　三菱長崎造船所技師　同　內藤鎌治郎
八幡市製鐵所々員　同　氏家隆武
神奈川縣川崎在日本鋼管會社員　同　川村九右衛門
神戸市脇濱町一丁目神戸製鋼所技師　同　金井俊清
同　同　鹽崎敬三郎
同　同　黑川忠彥
同　同　橫尾眞平
同　同　堀見東一
同　同　岡本武夫
兵庫縣尼崎市住友伸銅所尼崎工場　同　秋吉平一

轉居（新住所左の如し）

東京市赤坂區青山南町四ノ二〇　湊一磨
東京市麴町區丸ノ內海上ビルデング瑞典太洋商會
京都府新舞鶴町北吸二一九番ノ八　毛利要次郎
朝鮮平壤壽町一三六　三上榮太郎
兵庫縣尼ヶ市住友伸銅所尼ヶ崎工場　河村國助
京城府光熙町二ノ二一六　鈴木秋三
大阪市北區中之島六丁目株式會社岸本商會　庵住禎藏
東京市芝區南佐久間町一ノ三　田村七八郎
大阪北區曾根崎中二ノ一九四　藤岡友治
東京市本郷區駒込林町一、鳳林館　玉井義雄
吳海軍工廠造機部　齋藤彌平
兵庫縣武庫郡本庄村字深江六三四　田口由三
東京市外巢鴨町上駒込九八　川本良吉
朝鮮咸鏡南道利原郡遮湖港利原鑛山會社　芦葉清三郎
東京市日本橋區小傳馬上町一五　小幅膚治
廣島市上柳町三七ノ二　富田基
名義變更　增井敬次郎
水上齊ヲ九州銑鐵株式會社ニ